

平成14(2002)年度 日本語一般コース報告

留学生センター 畝田谷 桂子

1. はじめに——日本語一般コースとは？

留学生センターでは、全学の外国人留学生、外国人研究者、その家族を対象に、共通教育や大学院で実施する正規授業以外に、多くの日本語授業を提供している。これらの日本語授業は、「研修コース」と「一般コース」に大別される。「研修コース」は、主に大使館推薦国費留学生を対象とする、1学期間のインテンシブな大学院入学前予備教育である。この実施状況については、本報告書の別稿を御覧頂きたい。「一般コース」とは、この「研修コース」以外の、いわゆる日本語課外補講を核とする日本語授業群である。

「一般コース」は、本学の全ての外国人留学生、外国人研究者、その家族を対象としている。授業内容は1学期ごとに完結し、学生はあらかじめプレースメントテストで指定されたレベル内において、各々の日本語能力と時間の余裕に応じて、授業を必要なだけ選択して取ることができる。能力別に初級から上級の授業が提供され、技能別の授業も設けている。

ただし上級レベルの授業は、共通教育の日本語・日本事情科目（学部正規留学生の必修科目）を「一般コース」の中で上級レベルとして位置付け、学部正規生以外の上級レベルの留学生や研究者にも受講を許可している。またこの他に、水産学研究科が各学期2科目通年開講している日本語・日本事情（初・中級前半レベル及び初級後半以上のレベル）、農学研究科が前期1科目開講している科学技術日本語（中級後半から上級レベル）についても、共通教育科目と同様に「一般コース」の中でレベルの位置付けを行い、日本語学習機会の選択肢の一つとして、適正レベルの他研究科の学生等にも受講を勧めている。

本稿では、以下に次の順で平成14年度の「一般コース」の実施報告を行う。2. 開講時期、オリエンテーションとプレースメントテスト、3. ホームページ、シラバス、学生による授業評価、4. 2002年度の開講科目状況と新たな成果、5. 各授業の開講場所、受講者数、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属、国籍、6. 早急に解決すべき短期留学生に対する単位発行問題、7. 教育の質の向上に関する課題

2. 開講時期、オリエンテーションとプレースメントテスト

【1】開講時期

例年4月、10月に新規留学生の多くが鹿児島にやってくるが、渡日時期の状況から、授業開始は毎年全学の正規の授業日程より少し遅くせざるを得ない状況となっている。本年度は、以下の日程で授業を行った。

前期： 4/15～7/26（15週間） 後期： 10/21～2/21（15週間+2日）

【2】オリエンテーションとプレースメントテスト

留学生センターでは、前期と後期の始めに丸1日をかけて、大学や生活全般、日本語プログラムについてのオリエンテーション、及び日本語授業選択の目安となるプレースメントテストを実施している。日本語プログラムの説明にあたっては、両学期とも日英語のパンフレットを配付し、例年どおり、全授業のレベル別リスト及び授業担当者、教科書、授業内容、受講規則及び修了認定規則、教室配置図等を説明した。(パンフレットは前期：『日本語プログラム一般コースについて Spring 2002』、『Spring 2002日本語プログラム一般コース』、後期：『日本語プログラム一般コースについて Fall 2002』、『Fall 2002日本語プログラム一般コース』)

本年度のオリエンテーションは前期4/11、後期10/9に実施し、その後プレースメントテストの追加試験を、オリエンテーション時に受験できなかった学生を対象に前・後期とも2回ずつ実施した。(4/24, 5/1, 10/23, 30) 上級プレースメントテストはこれとは別に、前・後期とも共通教育初回授業で実施した。プレースメントテストの受験者総数は、前期50名、後期68名となった(受験者総数には上級テスト受験者(学部正規生等)も含む)。

なおプレースメントテストには、例年同様初・中級用には筑波大学開発のSPOT B (Simple Performance-Oriented Test) と自作の文法問題、上級用にはSPOT A と日本語検定協会のJ. Testの一部を使用した。

3. ホームページ、シラバス、学生による授業評価

留学生センターでは、2001年度以降【1】留学生センターホームページにおける日本語プログラムの情報の記載、【2】留学生センター所属の専任教官、非常勤及び謝金講師担当授業のシラバス作成及び初回授業での学生への配布、説明【3】学生による授業評価を実施しているが、本年度もこれらを継続実施した。

ホームページ作成に際して、毎回多大な御尽力を頂いている教育学部の中島先生、農学部の佐藤先生にこの場を借りて本年度も厚くお礼を申し上げたい。2002年度も、前・後期とも日本語プログラムのみならず、オリエンテーション情報も含め、オリエンテーション当日に間に合うように、新学期の情報をホームページで流すことができた。

また、留学生センター所属の全授業担当者がシラバス(『日本語プログラム一般コースについて Spring 2002』等に記載されている授業情報よりもっと詳しい、各授業についての情報)を作成し、各々の初回授業で学生に配布、説明した。各授業のシラバスは、授業開始後留学生センターに集め、いつでも学生や他授業担当者に提示できるようにした。遅れて来日した学生や、興味のある授業について情報を得たい学生に各クラスの詳しい情報を提供できるとともに、講師間の授業情報公開に資している。

さらに留学生センター所属全授業担当者の授業に対して学生による授業評価を行い、留学生センターで回収した。授業評価にあたり、質問紙は留学生センターで統一したものを作成した。この授業評価のまとめは本報告書の別稿を御覧頂きたい。

4. 2002年度の開講科目状況と新たな成果

前年度と今年度の鹿児島大学で開講された全日本語授業の開講科目数状況を表1に示す。(2001年度の表は畝田谷(2001)「平成13(2001)年度日本語一般コース報告」『留学生センター報告書2001』をまとめなおしたもの。)

表1 鹿児島大学日本語授業の開講科目数状況

2002年度

開講部局		レベル	開講コマ数/週	
			前期	後期
留学生センター	研修コース	初級 (集中コース)	14	15
	日本語課外 補講	初級	18	19
		中級1	10	9
		中級2	7	7
水産学研究科		初・中級	2	2
農学研究科		中級2	1	0
共通教育		上級	7	8
合計			59	60
前期+後期計			119	

2001年度 ・表中の()は2002年度との比較のため本稿で新たに計算した数。(桜ヶ丘)の数字は桜ヶ丘キャンパスの授業を足したコマ数。共通教育欄の()は同一科目の複数開講授業数。

開講部局		レベル	開講コマ数/週	
			前期	後期
留学生センター	研修コース	初級 (集中コース)	15	15
	日本語課外 補講	初級	11 (+1(桜ヶ丘)=12)	13 (+2(桜ヶ丘)=15)
		中級1	10 (+1(桜ヶ丘)=11)	8 (+1(桜ヶ丘)=9)
		中級2	0	7
水産学研究科		初・中級	2	2
農学研究科		中級2	1	0
共通教育		上級	(7)	(5)
合計			(48)	(53)
前期+後期計			(101)	

前年度と比較し、週当たり開講コマ数が年間18コマ増えた。これは初級レベルの開講コマ数の増加と中級2レベルの通年開講、共通教育科目で同一科目の複数開講コマ数を増やしたことによる。

初級レベルの増加は、初級レベルの週当たりコマ数を増やすことにより短期間で初級を習得できるようにするとともに、初級レベルを充実させて研修コースの既習者をそちらに振り分けて解消しようという解決策の一つである。中級レベルに関しては、学生の能力に応じたきめ細かい教育を効果的に行うために昨年後期から2レベルを設けたが、この編成は本年度定着した。この基本体制の中で、年度内において様々に起こる個別要因により開講科目を変更せざるを得ない場合には、学期

ごとに微調整し、柔軟な対応を継続して行った。また共通教育科目では、中級レベルを修了した受講者の増加と交流協定に基づく特別聴講学生の増加による受講者増に対応するため、本年度後期から同一科目の複数開講を前年比3コマ増加した。

また、昨年度後期から使用可能になった総合教育研究棟を、本年度も継続して教室として使用することができたため、大問題であった教室問題は解消された。以前は国際交流会館のホールを教室として使用していたため、劣悪な教育環境とともにプログラム全体のカリキュラム編成にも制約があったが、レベル別によりよいカリキュラムが組めるようになった。

本年度開講した授業科目を、35ページに表2「レベル別開講科目一覧表（前期、後期）」としてまとめた。各授業の担当者、内容、教材等については、学生向けパンフレット『日本語プログラム一般コースについて Spring 2002』、『日本語プログラム一般コースについて Fall 2002』を御覧頂きたい。紙面の都合上ここでは割愛させて頂くことにする。

5. 各授業の開講場所、受講者数、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属、国籍

前期と後期の各授業の開講場所、受講者数、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属、国籍を36～39ページの（表3、4）にまとめた。受講者の特徴を、以下4点について考察する。

【1】受講者数と修了者数

受講者総数は、前期延べ257名、後期延べ302名であった。この中で単位を取得した学生以外で出席率80%以上、試験得点60%以上の修了条件を満たした修了者数は、前期延べ66名、後期延べ71名であった。昨年度同様、学位取得を目指す多くの大学院生と研究生が、修了できない理由として専門科目の多忙さ、時間割りの重複等を抱えている。しかし、修了条件を満たせなくても可能な限り授業に参加し、日本語そのものの能力を伸ばす努力をしている学生が多い。一方、本学の学位取得を目的としない短期留学生（特別聴講学生、特別研究学生、科目等履修生。以後これらをまとめて「短期留学生」とする。）は修了条件を満たしやすい環境にあり、本年度も修了証または単位を得て帰国することに意欲的であった。

【2】受講者の在籍資格

受講者の在籍資格は、1) 学位取得を目指す大学院生、研究生、学部生が全体の約67.7%を占める（前期：大学院生30.0%、研究生23.4%、学部生15.2%、後期：大学院生18.9%、研究生37.4%、学部生10.6%）。2) 次に多いのが短期留学生で、全体の約19.7%（前期17.9%、後期21.5%）、3) さらに家族が全体の約9.7%（前期9.0%、後期10.3%）、4) 研究員が約3%（前期4.7%、後期1.3%）である。昨年度と比較すると、1)の内訳では本年度新たに学部生を含めて計算したためか数字に動きが見られるが、大きく1)～4)の構成比を見ると昨年度とほぼ同様の傾向であった。

さらに留学生総数に占める在籍資格別人数割合と、日本語受講者の在籍資格別割合を比較すると以下のものであった。

表5 留学生総数に占める在籍資格別人数割合と、日本語受講者の在籍資格別割合

留学生総数に占める在籍身分別人数割合は平成14年度 5/1 現在。平成14年度鹿児島大学概要による。

	A. 留学生総数に占める 在籍資格別人数割合	B. 日本語受講者の 在籍資格別割合	B - A
大学院生、研究生、学部生 (学位取得目的の留学生)	92.0%	67.7%	-24.3%
短期留学生	5.3%	19.7%	+14.4%

短期留学生は留学生全体の5.3%を占めるにすぎないが、日本語授業では19.7%、ほぼ5人に1人を占めていることがわかる。また逆に、大学院生、研究生、学部生のグループは留学生全体の92%を占めるが、日本語授業では67.7%にとどまっている。これは、短期留学生が共通教育や各部局で開講されている科目を受講して理解できるほどの日本語能力がなく、その代わりに初・中級レベルの日本語授業を多く取るからだと考えられる。また、学位取得目的の学生が留学生総数に占める割合に比して、日本語受講者に占める割合が少ないのは、彼等が長期滞在であり、滞在期間中初期には日本語授業を取るが、後半になると専門の勉強に比重が置かれ、日本語授業を取らなくなるためであろう。学部生を例にとると、1、2年ですべての日本語科目を履修する必要があるが、この単位を取得すれば、3、4年では履修できる日本語科目が選択肢としてまったくない。また大学院生では、多くは非漢字圏の博士過程に見られるが、研究に日本語が必要でない学生もおり、この場合は初級を修了し生活に必要な日本語を身につけた後、来日後比較的短期間で日本語授業から離脱する。

また、レベル別在籍資格を見ると、本年度も初級では家族の割合が多いが、中・上級ではその割合が激減し、さらに共通教育必修科目である上級では正規学部生が含まれることから、上のレベルに進むに従って学位取得目的の学生の割合が多くなっていることがわかる。

【3】受講者の専門・所属

前期は多い順に、教育学23.1%、工学17.5%、医学16.2%、農学15.0%、水産学9.8%、法文7.7%、理学6.4%、歯学3.9%であった。後期は、工学24.7%、農学15.1%、教育学15.1%、水産学11.1%、法文10.0%、医学9.6%、理学7.8%、歯学2.6%の順であった。

理系分野が全体の約72.1%（前期69.2%、後期74.9%）であり、昨年度の78.6%から少し減少が見られるが、依然として全体の7割を占めている。

開講場所で受講者の専門を見ると、1）郡元キャンパスでは、全ての専門の学生が受講しており、2）桜ヶ丘キャンパスは医学と歯学の学生のみ、3）下荒田キャンパスでは水産学の学生を主体に農学、工学の学生も少数受講していることがわかる。

さらに、留学生総数に占める部局別在籍割合（平成14年5月1日現在。平成14年度鹿児島大学概要による）と日本語受講者の部局別割合を比較してみると、昨年度同様、教育学の受講者が突出して多かった。（留学生総数に占める教育学部在籍割合7.3%、日本語受講者の教育学部前・後期平均割合19.1%（前年比3%増））

【4】受講者の国籍

最多の中国の受講者は、前期47.5%、後期46.0%であった（通年平均の対前年度比で5.6%増）。これに第2位の韓国（前期13.6%、後期10.3%（通年平均の対前年度比で4.4%増））を含めると、漢字圏の学生が全体の半数強（前期61.1%、後期56.3%（通年平均の対前年度比で9.7%増））を占めていることがわかる。

非漢字圏の学生で多いのはインドネシア、タイであるが、他はアジア、大洋州、南米、アフリカ、中近東各国にわたってばらついている。北米、ヨーロッパ地域からの受講生が極端に少ないのが特徴である。

【5】その他の分析

紙面の都合上これ以上の分析はここでは省略するが、上記4点の考察の他に、レベル別、授業別の受講者数／修了者数／専門／国籍、授業別在籍資格の分析が可能である。昨年度に引き続いてまとめたこの受講者の情報は、日本語プログラム全体及び各授業のカリキュラム編成やシラバスを作る上での基礎的な材料となり、その時々々の目的に応じて集計結果を分析して利用することができる。今後も毎年受講者について調査を行う必要がある。

6. 早急に解決すべき短期留学生に対する単位発行問題

交流協定締結校の増加に伴って、短期留学生のうち特別聴講学生が増えているが（平成14年度 5/1現在在籍12名。対前年度比4名増。）、これらの学生の来日時の日本語能力はゼロから上級までとばらつきがある。日本語が初・中級レベルの留学生は日本人向けの一般授業は到底理解できないので、多くの日本語科目（初・中級）を受講することになる。前述したように、本年度短期留学生（特別聴講学生と特別研究学生、科目等履修生合計16名）が留学生総数に占める割合はわずか5.3%であるのに対し、短期留学生が日本語受講者総数に占める割合は19.7%、ほぼ5人に1人の割合である。しかし、留学生センターが開講部局である日本語授業（研修コース及び日本語課外補講。すなわち「一般コース」の大部分の授業。表1参照）は単位発行が認められていない。単位発行のできる日本語科目は共通教育科目（上級レベル、通年週3コマ受講可能）と水産学研究科（初級後半～中級以上、通年週2コマ）、農学研究科（中級後半以上、前期のみ週1コマ）だけである。この状況は日本語未習者にとっては単位が取れる日本語授業がまったくないということであり、日本語既習者でも単位取得が可能な授業数が非常に少ない上、短期留学生が学部レベルか大学院レベルかによってさらに単位取得可能な科目に制限が加わることになる。

この状況から、短期留学生（特に特別聴講学生）が母国の大学へ持ち帰れる単位が、学生の授業受講の実態に合わない事態が生じている。具体例として、初中級の日本語授業の成績を上級の共通教育の日本語・日本事情科目に読み替えて単位を発行する例もあり、大変重大な問題となっている。また、日本語未習の場合で集中コースである研修コースに空きがある場合は1学期間研修コースで勉強する短期留学生もいるが、持ち帰り単位を取るために残り半年の滞日期間で専門の授業を多く取らなければならないため、継続して日本語授業を取る時間的余裕がなく、せっかく学んだ日本語

力を急速に失ってしまう場合がある。未習者の場合1学期間の日本語学習では専門の勉強を日本語で行う能力まではとうてい到達せず、滞在後半の専門の勉強には直接的にあまり役に立たない。結局前学期集中コースで週15コマ日本語に費やした労力が、帰国時に単位取得の形でも、また単位問題を抜きにした日本語能力の獲得、保持という実質的な意味でも、滞在後半の半年間の日本語教育のブランクで日本語能力が失われてしまうため、留学の成果として生きてこない。

短期留学生に対する単位発行問題は留学生センターだけでは解決できない大問題である。今後、交流協定締結数の増加に伴って学生数も増えることが予想される。ぜひともこの問題の存在を全学的に認識して頂き、早急に検討を行って頂くよう強く要請したい。

7. 教育の質の向上に関する課題

最後に今後の留学生をめぐる動きを見据え、現在考えられる教育の質の向上に関する課題を記す。

はじめに、平成15年度後期に日韓共同理工系学部留学生2名の受け入れが決定しており、韓国人留学生に対する学部入学前予備教育としての日本語教育と専門教育が始まる。日本語教育については、学生は各自の能力によって一般コースのいずれかの授業を受講することになるが、学部入学前予備教育に必要な日本語教育とは何なのか、今後十分考えていく必要がある。また専門教育については、数学、物理、化学、英語を開講することが決定している。留学生センターとして日本語教育以外の開講科目は初めてであるが、日本語で教育を行うため、専門語彙教育等日本語教育の視点も必要である。今後専門科目担当講師の方々及び受け入れ学部である工学部の専門教官の方々と密に協力して、最善の教育を企画・実施していく所存である。

第二に、受講者の在籍資格（大学院生、研究生、短期留学生等）と日本語学習目的や必要とされる到達能力の多様性（短期留学か学位取得目的か、学位取得目的の場合論文を日本語で書くことを求められているか否か等によって異なる、到達度として必要とされる能力）を把握し、日本語プログラム全体として一貫性のある視点でシラバス、カリキュラムを開発し、教授項目や訓練する技能を各授業に割り振る必要がある。

日本語受講者の在籍資格や日本語学習目的の傾向は、今後の本学の留学生受け入れ方針に大きく影響される。本年度日本語受講者の約20%である短期留学生が増えれば、コミュニケーション一般の能力を養う教育が求められることになるだろう。一方で、受講者全体の約68%を占める、学位取得目的の学部生・研究生・大学院生の存在も確実に続いていくであろう。本学の現状で多数を占める、いわゆるアカデミックジャパニーズ、すなわち大学における勉学や研究に必要な日本語のトレーニングが必要なこれらの学生と、コミュニケーション一般の能力の育成が必要な短期留学生とでは、必要とする教授内容の違いが問題になる。その違いを認識した上で、日本語プログラム全体としてシラバスやカリキュラムでどう妥協させるか考える必要がある。

その上でさらにアカデミックジャパニーズを意識した授業設計を考える必要があるだろう。アカデミックジャパニーズは現在その内容が模索されている段階であり、効果的な教育のためには、その研究成果を踏まえながら必要な教授項目を選定する必要がある。シラバス・カリキュラムを考え

るにあたっては、初級段階においては「初級段階では一般的な日本語の能力を伸ばすだけでよい」といった視点にとらわれず、初級の基礎項目を十分に踏まえた上で、日本語プログラム全体を通した視点で、アカデミックジャパニーズの観点を加えて授業設計を再考する必要があるだろう。その結果、導入量はわずかでも語彙、例文、ドリルの場面設定等で様々な工夫を初級から継続的に積み重ねていくことができるであろうし、必要であろう。また、質・量的にアカデミックジャパニーズの中核を担う中・上級では、教授項目のレベル別、技能別配列を、より一層プログラム全体を通した視点で考慮する必要がある。

また、アカデミックジャパニーズと言っても、前述したように、個々の学生によって必要な到達能力が異なるのが現状である。学生が個々のニーズに応じてうまく必要な技能の訓練が選択できるようなシラバスやカリキュラムをレベル別、技能別に整えることも必要である。

以上の点を実現するためには留学生センター専任教官だけではなく、授業を担当していただいている全ての講師の方々が日本語プログラム全体の受講者のニーズ、教育目的とカリキュラム構成、担当各授業の受講者のニーズ、プログラム全体の中での担当授業の教育目的の位置づけを理解している必要がある。そのためには、全ての担当者からの各授業やプログラム全体に対しての真摯なフィードバックが常に行われる環境、講師間の勉強会や授業内容及び教育手法についての情報の交換が必要である。今後はそのような機会を設けて、全ての授業担当者に受講者のニーズと私達に求められている日本語教育の内容について共通認識を醸成し、プログラム全体の質をさらに高くするために、授業担当者全員の知恵と創造性を出し合っていくことが非常に重要であると考えられる。集団のエネルギーは、個人の力を上回った成果を生むことができる。各人のエネルギーを楽しくいかんなく発揮することのできるこの集団をうまく作れるかどうか、今後私達のなし得る成果をおのずから決めると言っても過言ではないと思う。

(留学生センター 助教授)

表2 レベル別開講科目一覧表

★印科目は留学生センターの専任教官／非常勤／謝金講師が担当
留学生センターの開講科目は単位の発行ができない。

平成14年度前期

開講部局	開講場所	レベ ル				
		初 級		中級 1	中級 2	上 級
留学生センター	郡元 (初級2のみ国際交流会館)	★研修コース(集中コース)		★中級会話 1 ★非漢字圏読解 1 ★漢字圏読解 1 ★中級作文 1 ★漢字圏会話	★中級会話 2 ★非漢字圏読解 2 ★漢字圏読解 2 ★中級作文 2	
		★初級 1	★初級 3			
		★初級 2 ★漢字 1 ★初級作文				
	桜ヶ丘		★初級	★中級		
		★日本事情				
共通教育	郡元					★日本語Ⅰ ★日本語Ⅱ ★日本事情A ★日本事情C
水産学研究科	下荒田			日本語日本事情Ⅰ		
				日本語日本事情Ⅱ		
農学研究科	郡元				★科学技術日本語	


平成14年度後期

開講部局	開講場所	レベ ル				
		初 級		中級 1	中級 2	上 級
留学生センター	郡元 (初級会話のみ国際交流会館)	★研修コース(集中コース)		★中級会話 1 ★非漢字圏読解 1 ★漢字圏読解 1 ★中級作文 1 ★漢字圏会話	★中級会話 2 ★漢字圏読解 2 ★中級作文 2 ★科学技術日本語	
		★初級 1	★初級 2 ★初級会話 ★初級作文			
		★楽しい会話 ★漢字 1				
			★日本語能力試験4級準備クラス			
	桜ヶ丘		★初級	★中級		
共通教育	郡元					★日本語Ⅲ ★日本語Ⅳ ★日本事情B
水産学研究科	下荒田			日本語日本事情Ⅰ		
				日本語日本事情Ⅱ		

表3 各授業の開講場所、受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属

平成14年度前期

科 目	開 講 場 所	受 講 者 数		性 別		修了者数	受 講 者 の 在 籍 資 格			専 門 門 属										
		受 講 者 数	男 性	女 性	学 部 生		大 学 院 生	研 究 生	短 期 等	研 究 員	家 族 等	農 学	水 産	医 学	工 学	法 文	教 育	函 学	理 学	他 大 学
初級1	総合教育研究棟	11	4	7	7	0	0	0	3	0	0	8	1	0	0	2	0	0	0	0
初級2	国際交流会館	19	6	13	5	0	4	2	3	3	7	1	2	4	3	0	1	1	0	0
初級3		15	7	8	4	0	5	5	2	0	3	3	1	0	3	0	4	1	0	0
初級作文		4	4	0	2	0	1	2	1	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0
漢字1		10<9>	7	3	0	0	0	8	1	0	1	1	2	0	1	0	0	0	4	1
中級会話1		9	3	6	3	0	3	5	0	0	1	0	0	0	2	0	6	0	0	0
中級作文1		12	3	9	4	0	3	3	5	0	1	1	0	1	2	1	6	0	0	0
非漢字圏読解1		7	4	3	2	0	3	0	3	0	1	3	0	0	2	0	1	0	0	0
漢字圏読解1		5	1	4	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
漢字圏会話		6	1	5	6	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0
中級会話2		15	6	9	8	1	5	4	5	0	0	4	1	1	3	1	4	0	1	0
中級作文2		14	6	8	5	0	6	4	4	0	0	3	1	1	3	2	3	0	1	0
非漢字圏読解2		7	4	3	4	0	3	1	3	0	0	0	2	1	1	1	1	0	1	0
漢字圏読解2		8	2	6	3	0	1	4	3	0	0	3	1	1	0	0	3	0	0	0
科学技術日本語		11	5	6	3☆	0	10	1	0	0	0	8	0	0	2	0	0	0	1	0
日本語I*		23	10	13	3☆	13	3	2	5	0	0	1	2	1	5	5	5	1	3	0
日本語II*		21	10	11	3☆	12	1	2	6	0	0	1	2	1	6	4	4	1	2	0
日本語III*		20	10	10	3☆	13	1	1	5	0	0	0	2	1	5	4	5	1	2	0
郡元キャンパス小計		217	93	124	66	39	51	56	46	3	22	33	16	12	41	18	54	5	15	1
日本語・日本事情I		5	3	2	0	0	4	1	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0
日本語・日本事情II		4	2	2	1☆	0	3	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
下荒田キャンパス小計		9	5	4	1	0	7	2	0	0	0	2	7	0	0	0	0	0	0	0
日本事情		13	6	7	7	0	7	1	0	5	0	0	0	11	0	0	0	2	0	0
初・中級会話		18	7	11	7	0	12	1	0	4	1	0	0	15	0	0	0	2	0	0
桜ヶ丘キャンパス小計		31	13	18	7	0	19	2	0	9	1	0	0	26	0	0	0	4	0	0
総 計		257	111	146	67	39	77	60	46	12	23	35	23	38	41	18	54	9	15	1

注) 1 数字は延べ数。
 2 *印の科目は共通教育科目。
 3 ☆印は単位発行ができない学生の修了者数。
 4 <>は内数で研修コース生。
 5 修了者数欄  は修了認定をしない授業。

平成14年度後期

科 目	開 講 場 所	受 講 者 数		性 別		修 了 者 数	受 講 者 の 在 籍 資 格				専 門 ・ 所 属								
		男 性	女 性	学 部 生	大 学 院 生		研 究 生	短 期 等	研 究 員	家 族 等	農 学	水 産	医 学	工 学	法 文	教 育	歯 学	理 学	他 大 学
初級1	総合教育研究棟	22	9	0	11	3	1	7	2	1	1	5	1	1	1	0	2	0	2
初級2	総合教育研究棟	19	14	0	12	3	0	3	2	1	0	6	0	4	0	3	0	0	0
初級会話	国際交流会館	18(4)		0	6	4	0	6	3	2	2	2	0	2	0	1	0	0	0
初級作文		7	5	0	2	2	0	3	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0
楽しい会話		24(14)		0	13	7	0	4	9	1	1	2	1	0	0	2	4	0	0
漢字1		14(13)		0	11	3	0	0	4	1	1	1	1	0	0	1	5	0	0
日本語能力試験(級)準備クラス		14		0	6	0	0	4*	1	5	1	0	0	0	0	2	1	0	0
中級会話1		17	6	0	6	2	1	2	3	2	1	6	0	2	0	1	0	0	0
中級作文1		6	1	0	2	1	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
非漢字圏読解1	総合教育研究棟	5	4	0	2	1	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
漢字圏読解1		5	3	0	4	1	0	0	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
漢字圏会話		9	4	0	4	5	0	0	1	2	0	4	1	1	0	0	0	0	0
中級会話2		14	8	0	3	2	0	0	2	0	0	6	1	5	0	0	0	0	0
中級作文2		5	3	0	3	2	0	0	2	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0
漢字圏読解2		12	5	0	4	2	0	0	2	0	0	4	2	4	0	0	0	0	0
科学技術日本語		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語III*		31	15	12	4	11	0	0	2	2	2	8	6	7	1	3	0	0	0
日本語IV*		30	14	12	4	11	0	0	2	2	2	8	6	6	1	3	0	0	0
日本語情報B*		20	9	8	1	9	0	0	0	0	0	4	6	6	0	2	0	0	0
郡元キャンパス小計		274	147	70	107	64	2	30	39	22	13	66	27	41	4	21	9	2	2
日本語・日本事情I		10	5	1	8	0	0	1*	1	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0
日本語・日本事情II		2	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下荒田キャンパス小計		12	6	0	9	0	0	1	1	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0
初級	医学部	5	3	0	2	1	0	0	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0
中級	国際交流会館	11	7	0	7	0	2	0	0	0	9	0	0	0	0	2	0	0	0
桜ヶ丘キャンパス小計		16	10	0	9	1	2	0	1	0	12	0	0	0	3	0	0	0	0
総 計		302	163	71	113	65	4	31	41	30	26	67	27	41	7	21	9	2	2

注) 1 数字は延べ数。

2 *印の科目は共通教育科目。

3 ☆印は単位発行ができない学生の修了者数。

4 ()は内数で研修コース生。

5 修了者数欄  は修了認定をしない授業。

6 *印は漁業庁、JICA研修生。

表4 受講者の国籍
平成14年度前期

国	科															目												
	初級1	初級2	初級3	初級作文1	初級漢字	中級会話1	中級作文1	非漢字圏読解1	漢字圏読解1	中級漢字圏読解1	中級作文2	非漢字圏読解2	漢字圏読解2	漢字圏読解2	科学技術日本語		日本語I	日本語II	日本事情A	郡元キャンパス小計	日本語・日本事情I	日本語・日本事情II	下荒田キャンパス小計	日本初・中級事情	中級初・中級事情	桜ヶ丘キャンパス小計	国別人数	
中国	5	9	7	2	0	8	5	0	5	6	7	6	0	5	6	6	13	11	11	106	2	2	4	6	6	6	12	122
韓国	1	1	0	0	0	0	2	0	0	3	4	2	3	0	0	6	6	5	33	0	0	0	1	1	1	2	35	
インドネシア	3	3	1	0	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	13	
ブラジル	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	6	0	0	0	0	0	0	0	6	
フィリピン	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	1	0	1	0	1	0	1	5	
オーストラリア	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	
ミャンマー	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	
タイ	0	1	2	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	2	2	4	13	
バンダラデシユ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	2	3	5	
メキシコ	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	
イラン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	
イエメン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
パキスタン	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	5	0	0	0	0	1	1	2	7	
エジプト	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
ベトナム	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
トルコ	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
アルゼンチン	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	0	0	0	4	
ナイジェリア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
カナダ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
タンザニア	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
ヨルダン	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	1	0	1	0	1	4	
コンゴ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
パプアニューギニア	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
インド	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	4	
ペルー	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	2	4	
マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	2	7	0	0	0	0	0	0	0	7	
モンゴル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
カンボジア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	
受講者総数	11	19	15	4	10	9	12	7	7	5	15	14	7	8	6	11	23	21	20	217	5	4	4	9	13	18	31	257

平成14年度後期

国 籍	科 目																												
	初級 1	初級 2	初級 会話	初級 作文	初級 のし 会話 1	漢字 能力 試験 4級 準備 会話 1	中級 試験 1	漢字 圏 非漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1	漢字 圏 漢 字 読解 1										
中国	10	8	9	5	6	0	2	10	5	0	4	9	11	9	2	1	15	13	9	128	5	1	4	6	1	4	5	139	
韓国	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	2	0	7	8	7	30	0	0	0	0	0	0	0	1	31	
インドネシア	1	0	1	0	1	1	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	9	
ブラジル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
フィリピン	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	2	0	0	0	6	
オーストラリア	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
ミャンマー	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
タイ	1	0	1	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	11	0	0	0	0	0	0	1	2	14	
バンダラデシユ	1	1	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	1	1	2	10
イラン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3
パキスタン	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	7	0	0	0	0	0	0	0	1	1	8
エジプト	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ベトナム	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
トルコ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
アルゼンチン	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
コロンビア	1	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
モリタニア	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ハブアニューギニア	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
フィジー	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
スペイン	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
マラウイ	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
タンザニア	1	1	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
ソロモン諸島	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
アメリカ	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	7	0	0	0	0	0	0	1	0	1	8
ヨルダン	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	6	2	0	0	0	2	0	0	0	0	8
コンゴ	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ペルー	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	2	0	0	0	0	0	0	5
ガーナ	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ロシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
ナムビア	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
カーボベルデ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6
受講者総数	22	19	18	7	24	14	14	17	5	5	6	9	14	12	5	2	31	30	20	274	10	2	5	11	12	5	11	16	302